

## 地域連携による歴史物語づくり

### - 歴史データベース・システム利用による地域コミュニティの実現

株式会社エンサイクロメディア 企画担当取締役 宮之原 立久

miyano@eel.co.jp

http://www.eel.co.jp/

キーワード：総合的な学習の時間，歴史教育，地域学習，情報教育，プラットフォーム，編集，データベース

#### 1. 目的

「総合的な学習の時間」では，地域密着型の学習を通じて地域の再認識を促し，児童・生徒の地域活動への積極的な参加意識を醸成することが重視され始めている。地域を知ることが，今，現在だけを知るのではなく，その地域の歴史的系譜・系統を流れごと理解することが大切で，地域の歴史の再認識が出発点となると考える。また，同時代の日本・世界の情勢なども関係づけるミクロ・マクロの視点を持つことも大事である。したがって，「総合的な学習の時間」における地域学習では，多面的な歴史的観点を持ち込むことが求められると考える。

現在，多くの地域で膨大な地域歴史コンテンツのデジタル化・アーカイブ化プロジェクトが進行中であるが，これらを有効に活用する教育方法はまだ確立していない。また，多くの地域歴史コンテンツが固定化・死蔵化されており，学校教育において利用可能な地域歴史コンテンツは必ずしも多くない。

また，各学校における地域学習において，児童・生徒が調べた地域歴史コンテンツは，当該校の中だけにストックされ，学校間での共有は図られてこなかった。

上記の状況のなかで，ITを活用することによって，地域歴史コンテンツの共有・再流通・相互編集可能な「相互編集プラットフォーム」を基盤とした新たな教育・学習モデルの構築が本提案の目的である。

#### 2. 提案の概要

本提案は，教育センター（地域センター）を拠点として，地域ネットワークを介した地域歴史コンテンツの共有・再流通・相互編集が可能な学習環境を整備する。その実現にあたっては，「クロノス・システム」\*を利用する。この相互編集プラットフォーム環境を基盤にして，インターネットによって地域の学校教育への参加を促進し，電子ネットワーク上でのコミュニティを形成する。そして，コミュニティ内でコラボレイティブな学習活動が進行する新しい学習環境の構築を目指す。構成モデルを図1に示す。

また，授業カリキュラムの構成にあたっては，松岡正剛（編集工学研究所所長・帝塚山学院大学教授）が提唱する「編集工学」をベースに，地域歴史コンテンツ（情報）間に新たな関係を見出し多面的に歴史を捉えて，多様な歴史物語が創発し，その学習活動の中から生徒が主体的な問題解決の学習方略を獲得できるカリキュラムを編成する。このことは，総合的な学習，歴史教育であると同時に，情報活用の実践力を育てる情報教育にもつながるものである。想定される授業カリキュラムについては，次項のとおりである。

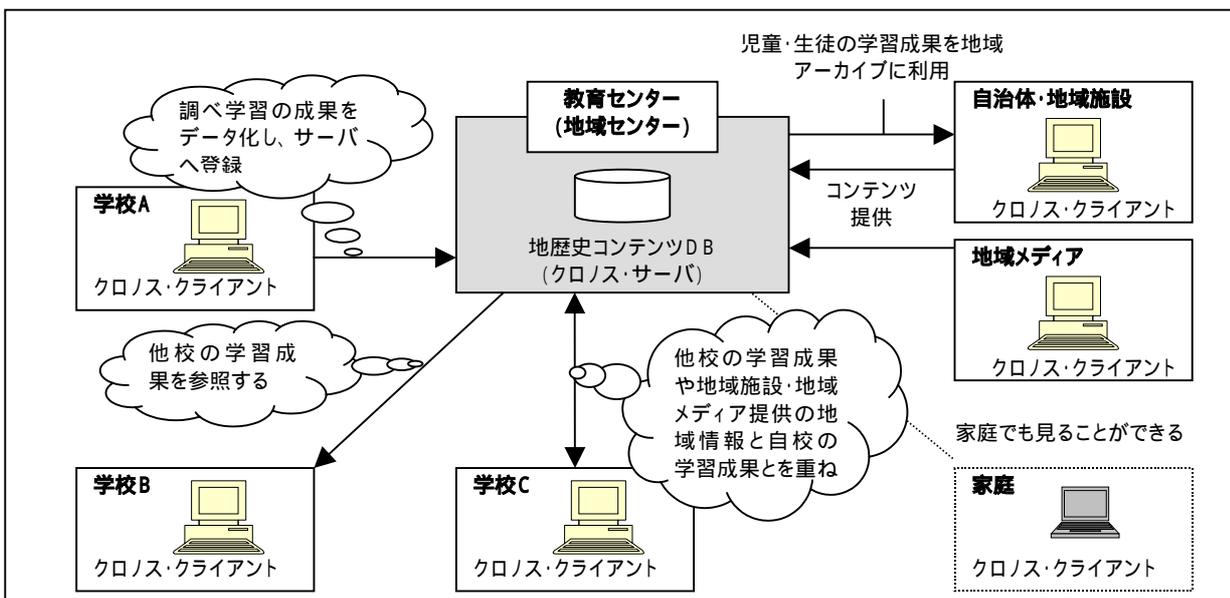


図1 構成モデル

### 3. 想定される授業の流れ

本提案で想定される授業の流れは以下のとおりである。

多様なテーマを設定する

- ・年代範囲を同一として、参加校は各学校を中心とした地域の歴史を調査テーマとして設定する
- ・各校内では、政治、経済、技術、産業、芸能、流行など多様なジャンルをそれぞれ児童・生徒に割り当てる。

調べ学習（地域の歴史を調べる）

- ・児童・生徒各自は設定したテーマについての地域の歴史を時系列で調べ、データ化する
- ・データ化された歴史コンテンツを地域センターのサーバ（クロノス・サーバ）に保存する
- ・自治体・地域施設・地域メディアに所存コンテンツの提供を要請する
- ・電子会議室システムなどを利用して、インターネットを介して地域情報を収集する

すべての地域歴史データを「クロノス・システム」で俯瞰する

- ・地域センターのサーバ（クロノス・サーバ）に蓄積されたすべての地域の歴史を「クロノス・システム」でたどる
- ・別途、保存された世界史・日本史を重ね、ミクロ・マクロの視点から地域の歴史を捉える

歴史を関係づける

- ・自分のテーマを軸として、関連する地域歴史データをピックアップし「データセット」としてまとめる
- ・「データセット」内の地域歴史データ間に関係づけを行う（関係線を引く）

歴史物語をつくる

- ・「データセット」を利用して、シナリオ化し「地域歴史物語」をつくる

歴史物語を共有する

- ・各校で作成した物語は、データセットでの共有、あるいはWebでの公開などによって、参加各校で共有する

### 4. 期待される効果

- ・児童・生徒が地域を多面的・多角的に理解するための学習方略を獲得できる。
- ・学習成果として蓄積された地域コンテンツが次年度以降の授業でも活用できるとともに、他校での利用も可能になる。
- ・教育センター（地域センター）を拠点とすることで、教育現場で利用可能な地域コンテンツを一元的に管理することができる。
- ・端末を地域施設・地域メディアに設置しインターネット等でむすぶことで容易に地域コンテンツを提供することができ、地域と学校との連携の促進をはかることができる。
- ・情報提供者として住民や父母など参加者を広げることで、児童・生徒の学習活動を軸として地域コミュニティの形成につなげることができる

\*クロノス・システム（暦象データベースによる編集航行型研究教育システム）

クロノス・システムは、経済産業省の「1999年度情報化教育モデル学習システム構築事業」において、「個別的な知識の記憶から知識間の関係発見へ」「固定的な歴史観から書き替え可能な動的な歴史観へ」「関係づけによる新しい仮説構築へ」といった学習方法の根本的な転換を目的に開発された歴史データベース・システムである。3次元の歴史空間（立体年表）にそれら歴史データを配置し、タイムトンネルを航行するように歴史を縦横にたどることができ、歴史事象間の時間的関係（縦の関係）、地理的・ジャンルの関係（横の関係）を同時に視覚的にとらえることができるシステムである。